

# 令和6年度 食に関する指導の全体計画①

ひのみね支援学校

## 児童生徒の実態

小:全児童17名（センター生4名）が重複障がい学級に在籍。食事は、11名が経管栄養、9名が胃瘻で、このうち5名が経口摂取との併用。食形態は、刻み食や嚥下食が大半である。誤嚥の危険やアレルギーのある児童も在籍し、安全に食事をすることについて配慮が必要。

中:生徒11名（センター生2名）の内、3名が胃瘻で、8名が経口摂取。医療的ケアの必要な生徒が多数在籍し健康面への配慮を要する。

高:1生徒20名のうち、1コースの生徒は高等学校に準じた教育課程。食事に関して、保護者と連携を図りながら取り組んでいる。3・4コースの生徒は自立活動を主として指導する教育課程及び訪問教育における教育課程を編制したHRに在籍しており、8名が胃瘻等である。食事に関して、センター生は病棟と、通学生はセンターのリハビリテーション課や保護者と連携を図りながら取り組んでいる。

## 保護者・地域の実態

児童生徒48名の内、13名は隣接するひのみね医療療育センターに入所している。センター及び保護者と連携を図りながら教育活動を行っている。

## 食育の視点

- ・食事の重要性
- ・心身の健康
- ・食品を選択する能力
- ・感謝の心
- ・社会性
- ・食文化

## 学校教育目標

児童生徒一人ひとりの個性と人権を尊重し社会参加と自立の促進にむけて自己実現に努める心豊かな「人財」を育成する。

## 【第4次食育推進基本計画】

・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている国民の割合  
50%以上

## 【徳島県食育推進計画第4次】

・朝食の欠食率週4日以上の人の割合  
0%

## 食に関する指導目標

### (知識・技能)

食事の大切さや楽しさを知り、栄養バランスに配慮した食生活や望ましい食習慣を身につけることができる。

### (思考力・判断力・表現力)

食生活や食の選択について、意思表示して食事を摂取することができる。

### (学びに向かう力・人間性等)

食や食文化、生産等に関わる人々に対して感謝の気持ちを持ち、食事のマナーを身につけ、豊かな食生活を送ることができる。

## 各学部の食に関する指導の目標

### 小学部

### 中学部

### 高等部

- ・季節や行事、地域の食材にたくさん触れる経験を通して、食べることに興味・関心を持つことができる。
- ・食事指導における教員との関わりを通して意思を伝えることができる。
- ・食事の挨拶を通して食への感謝の気持ちを持つことができる。

- ・季節毎に育った野菜を収穫し、調理して食べる活動を通して旬やおいしさを味わうことができる。
- ・日頃食べている食品や料理の名前、栄養について理解し、食品を選択して意思を伝えることができる。
- ・食事のマナーやきまりを守って楽しく食べることができる。

- ・栄養バランスのとれた組み合わせを考えることの大切さを理解し、望ましい食習慣を身につけることができる。
- ・食品の品質及び安全性を判断し、食品を選択して食べることができる。
- ・体験を通して、自然の恵みや生産者に感謝し、食べられる量をできるだけ残さず食べることができる。

## 校内食育推進体制（食育推進委員会）

- ・校長
- ・教頭
- ・学部長
- ・保健主事
- ・食育リーダー
- ・養護教諭
- ・学校栄養職員

## 食に関する指導

- 教科等における食に関する指導
  - ・公共・保健体育・家庭・生物基礎
  - ・総合的な探究の時間
  - ・合科学習
  - ・道徳
  - ・自立活動
- 給食の時間における食に関する指導
  - ・学校栄養士来校（毎月）
- 個別的な相談指導
  - ・肥満傾向児への指導
  - ・安全な飲食指導のための研修や情報収集
  - ・個々に合わせた食事指導
  - ・アレルギー調査→個別相談（個別対応についての共通理解）など
  - ・S T来校指導（食事）

## 病棟との連携

病棟との連絡会（年2回）、食形態や食べ方、好き嫌い等に関する聞き取り、アレルギーについての共通理解

## 家庭・地域・事業所との連携

- ・食育だより年3回（保護者用）発行
- ・学校保健委員会
- ・学校給食委員会
- ・栄養個別指導（肥満等）
- ・地元の商店等との連携（地産地消）
- ・旬の食材の使用

## 食育推進の評価

活動指標：「安全な食事のための実態把握シートII」に基づき、STコンサルテーションにて指導・助言をもらい、安全面、衛生面に配慮しながら摂取方法の工夫を行う。（年2回）

成果指標：STコンサルテーションにて指導・助言を受けて、指導の成果があつた割合 80%